

令和5年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県央会場

科目 ⑤児童期（6歳～12歳）の生活と発達

- ◆ 児童期の生活と発達を把握する理論は難しい内容でしたが、分かりやすいイラストを使っての説明で理解ができました。Bronfenbrennerによる生態学的システム理論はとても興味深いお話でした。目の前に向き合っている子ども自身から学ぶことの重要性、継続的な学習の必要性を改めて知ることができました。発達段階に見合った支援を心がけ、日々子どもたちと関わっていききたいです。
- ◆ 今回の科目でとても印象的であった言葉は「子どもたちから学んだことを子どもたちに返すことが、発達援助職の仕事」という一文でした。流行り物等だけでなく、実際に子どもたちから、学ぶことや感じること、考えることは多くあり、この職にかなければ分からなかったことばかりです。まだ、子どもだと思っけていても大人に向けて成長している子どもたちへ押しつけにならない支援をこれからも行っていききたいと思います。
- ◆ 色々な学年が利用する放課後児童クラブでは、それぞれの発達特性に関する正しい理解とそれに基づいた適切な配慮が必要であると学びました。そして、「こうあるべき」ではなく、子どものできることを伸ばそうとする思いで、今の状態を受け止め、子どもに寄り添うことが大切であることも学びました。これから仕事をしていく上で、広い視野をもって全体を見渡して、状況や動きを捉えて、子どもたちの寄り添っていききたいと思います。
- ◆ 子どもは家庭や学校、地域の中で発達することを学びました。大人との安定した信頼関係が重要になってくるので、時間をかけてでも徐々に関係が築けるように努力したいです。エリクソンのライフサイクル論では、幼児期と児童期で明確に差があることを学びました。放課後児童クラブで子どもたちと過ごす上で、「有能感」を獲得するような援助や、認知発達に応じた援助ができるようになりたいです。
- ◆ 子どもたちがそれぞれ違った家庭、環境、Bronfenbrennerが指摘するシステムの中で成長していることから全員が同じ発達状況、必要な支援である訳がなく、放課後児童クラブに求められる個々を理解し、必要な支援を考え続ける意義を理解できました。ヤングケアラーを題材とした映画を見て、例えば兄弟が多く、下の子の面倒を見なければいけないなど状況は様々であるということで、大変身近なものとして捉えることができました。